

法話

「きく」という生き方
 阿弥陀さまの願いを聞き、
 自身の姿を振り返る
 吉本 公俊師
 京都府久御山町・大光寺住職

相手に共感して

私たちは、ふだん人の話を本当によく聞いているでしょうか。

もしかしたら、相手の言うことに熱心に耳を傾けることよりも、自分の話を人に聞いてもらいたいという欲のほうが勝っているのではないのでしょうか。

あるいは自分にとって都合のよいところや興味深い部分だけを耳に入れ、そうじゃないところに対しては、耳を閉ざし排除するというようなことをしていないでしょうか。

古代ギリシャの哲学者・ゼノンが、自分が話すことの倍。相手の話を聞かなければいけないと言っているが、やはり、人の話をよく聞くことの大切さを教えてくれているのでしょうか。

ちなみに、「きく」には「聞く」と「聴く」という漢字表記があります。

「聞」は音が自然と(意識せず)耳に入ってくる。

「聴」は部首に「心」という字があることからわかるように、心

をこめて意識して耳を傾けること。そういう違いがあるそうです。

「傾聴」という言葉があります。自分の意見をはさんだり、批判や反論もせず、相手の話に耳を傾けることに徹するという意味になるのでしょうか。これは相手の立場に立ってその人に共感しながら、そしてその人の意見を肯定しながら、ただひたすら聞くということでもあり、特にビジネスや介護の現場においては大変重要なスキルとされているそうです。

浄土真宗の門徒にとっては、「聴聞」が特に大切だといわれています。仏さまのみ教えをよく聞くこと。お念仏のよび声を真摯に心から聞くこと。

傾聴であれ、聴聞であれ、その根底に共通してあるものは、相手の話を素直に聞き、ひいては相手の存在そのものまで、そのまま受け入れていくという一つの姿勢ではないのでしょうか。

ひたすら耳を傾け

みなさんもご存じの通り、親鸞聖人やお若い頃、比叡山で仏道修行をされていました。そこでは自身の迷いを断ち切るために、さまざまな行にいそしまれたはずですが、当時の比叡山は、学問が盛んに行われている、日本で最高の仏教研究機関の一つでした。今でいえば有名大学のような最高学

府に相当するのでしょうか。親鸞聖人はそこで仏教思想も探究されたはずですが、いわば当時の「知」と「仏道修行」を究められたことでしょうか。

しかし、そのような親鸞聖人であつても、何か心の中にあるもやもやつとしたものを取り除けなかつたのです。

そこで法然聖人のもとに赴き、師のお導きによって本當の意味でお念仏のみ教えに出あわれることになるのです。

お念仏というものがいかに素晴らしいものであるのか。

お念仏はいかなる行にも勝り、お念仏を称えるのに余計な知識などはいらない。なぜならお念仏は阿弥陀如来から私たちに与えられるものだから…。

ここで想像するのは、師である法然聖人が語りかける本願のみの教えに、ひたすら耳を傾ける親鸞聖人のお姿です。子どもが何かの遊びに熱中して無心になっているかのごとく、師の口から出てくるお念仏のみ教えをただ素直に全身でもって受け入れていこうとされる聖人のお姿です。

何をやっても救われる道を見いだせなかつた自身の前に師が説き示されたお念仏のみ教え。その一つの道を疑いなく歩んでいこうとされる親鸞聖人の固い決意。

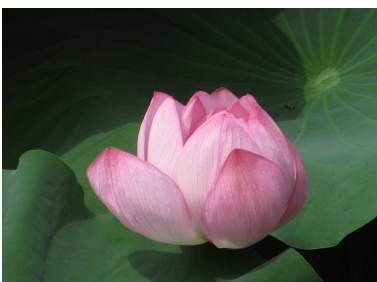
あるいは、阿弥陀如来の大きな

慈悲のみに照らされた、そこであらわになった自分の心を見つめ直される親鸞聖人の視線。そして阿弥陀如来の本願と出あえて歓喜に包まれた聖人のお顔を心に思い描いています。

そのような親鸞聖人のお姿を思い出すとき、私たち浄土真宗の門徒は、お念仏のよび声を聞かせていただき、阿弥陀さまが私たちに對して願われていることを、心して聞いていくことが本當に大切なのではないのでしょうか。

お念仏は、私たちにとって鏡のような存在でもあります。お念仏のみ教えを聞かせていただき、そこに映し出されるわが身を絶えず振り返り自ら反省していく。そういう生活の中に、仏教徒としての謙虚な生き方があるのだと私は思っております。それが「きく」という生き方ではないのでしょうか。

本願寺新報 令和6年3月1日号掲載



住職より

○去年コロナに感染して、悪化していた慢性副鼻腔炎を直すために、先月中旬に入院・手術を致しました。術後は良好で、花粉症の方々が苦しんでいらっしやる横で、鼻がすっきりしたと喜んでいきます。

○教誓寺維持費（護持会費）について

平成元年より三十六年間、ずっと月千円で、年一万二千円を維持して参りましたが、物価高騰には逆らえず、蓄えからの支出も余儀なくなつて参りました。

年一万二千円の維持会費は今年までとして、報恩講までに令和七年度からの改定額を決定させて頂きます。皆様にはご理解の上ご協力頂ければ幸いにございます。

どうぞ皆様のご意見を聞かせ下さい

彼岸会法要のご案内

彼岸とは、仏さまのさとりの世界、お浄土のことです。様々な煩惱に生きる私たちの生活の中で、夕日が真西、お浄土の方向に沈む春分の日を中心とした1週間、彼岸（お浄土）を思いながらお勤めする法要です。

教誓寺彼岸会法要

3月20日（水）春分の日
午後2時よりお勤めします
ご都合のつく方は、時間に合わせてお参り下さい。ご一緒にお勤めしましょう

*お彼岸の期間は

春分の前三日間と後の三日間の七日間です。今年、3月17日（日）～23日（土）です。

ご都合が悪く、お出かけになれない時は、お寺にご連絡を頂けば、お花とお線香をお供えして、皆様に代わつての墓参をお引き受けします。



築地本願寺より

新年号でもお話ししましたが、本年築地本願寺でお勤めされます「親鸞聖人お誕生八百五十年・立教開宗八百年」の慶讃法要に向けて懇志の依頼が来ております。

法要を務めるにあたって本堂の雨漏りなどの修繕費用も併せてお願いしたいとのこと、教誓寺には、約五十万円の依頼が参りました。

物価高騰の波は、お寺にも例外なく押し寄せ、コロナ禍で顕著になりました。法要の簡素化の流れも寺院経営を難しくしています。

築地本願寺の懇志の依頼についても、日常の寺院経営の中からひねり出すのは難しいので、是非皆様の御協力を得て果たすことが出来ましたら幸いです。御懇志の総額が依頼額より多くなりました時には、教誓寺の寺院経営に充てさせて頂きたく存じます。

教誓寺の維持会費の御進納の時期でもありますので、

維持会費と築地の懇志の二つの御進納を一枚の払込票（手数料受取人負担 赤）で合計額を払い込めるように用意いたしました。よろしくお願ひします。

維持（会）費

進納のお願い

教誓寺総代・世話人一同

令和6年度の

教誓寺「維持費」のご進納をお願いいたします。

詳しくは、同封の別紙教誓寺維持費（護持会費）納入のお願いをご参照下さい。

また、お寺にお持ち頂くときには、封筒に入れて**必ず記名**の上お渡し下さい。

*維持会費用の封筒を用意しておりますのでご入用の時は、声をおかけ下さい。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-00073
東京都港区三田 一十二一十一
〇三(四五)一二九
kyouseiji@is4.sonet.ne.jp